

授業科目名	リスクマネジメント論	担当教員	千賀 喜史
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	<p>リスクとは経済的損失や事業の中断、停止、信用、ブランドイメージの失墜等、事業活動に望ましくない影響を与える可能性やその要因と定義する。組織経営の安定化を図りつつ、組織として存続、発展していくうえで障壁となるリスクを正確に把握し、事前に経済的かつ合理的な対策を講じることで、危険の発生を回避するとともに、危機発生時の損失を極小化するための活動をリスクマネジメントという。法令違反によるリスク以外にも、自然災害によるリスクや環境リスク、情報漏洩やシステムダウンのリスク、調達・物流リスクなどもある。そのためにも危機に直面し、緊急事態に至った場合に備えた取組みや実際の緊急事態対応に関するマネジメントのあり方に関して、過去の実例を交えながら学んでいく。</p>		
到達目標	<p>日常からリスクマネジメントをおこなうための備えとして、定期的なリスクアセスメントの実施が求められる。ではどのような体制で、どのような手法を用いながらアセスメントをおこなえばいいかを考えていく。</p> <p>① 過去に実際発生した事例に基づき、的確な対処ができるよう準備的考察をする能力が習得できる。</p> <p>② 伝統的なリスクマネジメントの手法を習得し理解できる。</p> <p>③ メンバー間の協働に基づきリスクアセスメントの手法を取得し実践できる能力が身につく。</p> <p>④ リスクとリスクマネジメントに関する意思決定の理論が習得できる。</p>		
授業計画	<p>実例を使用し受講生が自ら考える主体的、能動的な授業をおこなう。少人数でロールプレイ式のグループワークをおこなう。各人が行政や企業、NPO、財団、市民代表などの役割を担い、意見を集約する方式で討議を深めていく。異なる役割を担うことで、立場の異なる組織の連携にどのように取り組めばよいか学んでいく。</p> <p>1回 身の回りのリスク 2回 リスクの概念① 3回 リスクの概念② 4回 リスクの実際 5回 リスクファイナンス 6回 リスク評価とバイアス 7回 リスクコミュニケーション 8回 リスクマネジメントの基本 9回 企業のリスクマネジメント 10回 リスクマネジメントの実際 11回 ケーススタディ 12回 発表と講評</p>		

事前・事後 学習	連日のように報道される企業の不祥事などに注目し、その事件（事案）はなぜ発生してしたかその背景について関心をもつこと。また、今後同様の事案が発生した場合に初動においてどのような対応が求められるか、日ごろから考える訓練をすること。
テキスト	特定の教科書は利用せず、各回プリント教材を配布する。
参考文献	勝俣良介（著）、ニュートン・コンサルティング株式会社（2016）『世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座』、オーム社
成績評価 の基準	① 各回の講義での発言やクラス貢献度(30%) ② グループ討議での貢献(20%) ③ グループもしくは個人によるプレゼンテーションとレポート(50%)
履修上の注意 履修要件	「組織マネジメント論」を合わせて履修することで、多角的な組織論の獲得と応用につながる。組織マネジメントの応用科目にあたるため、適正は当人でよく判断してほしい。
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	授業の遅刻や早退など出欠自由に関わる連絡は、クラスルームでの個人宛連絡及びメールアドレス宛に事前に連絡をお願いします。リフレクションシートでの上記連絡事項は無効とします。